

お取引先さま各位

カカオ・チョコレート週刊ニュース 77号

2013/12/9 発行
株式会社 立花商店
生田 渉

お世話になります。カカオ・チョコレート関連のニュースを前週の出来毎の中から注目ニュースを5本前後ピックアップして、発行しています。カカオやチョコレート中心に取り扱っております弊社と致しましては、広く関係者の方々に読んでいただけるように、少しずつでも有益な情報をお届けできればと考えております。宜しくお願い致します。

1、市況の動き：先週と大きく変わらず均衡状態が続く。

①週最高：3月 LDN 市場£1,762 /12月 NY 市場\$2,813 (12/6,12/2) 先週比 **LDN -£8/NY +10**

②週最低：3月 LDN 市場£1,733 /12月 NY 市場\$2,754 (12/5) 先週比 **LDN -£3/NY - \$10**

週内価格差額 (①-②)：LDN 市場£28 (傾向→) / NY 市場\$37 (傾向→)

週内建玉推移：LDN市場枚 240,298 (11/29 終了時)⇒234,480 枚 (12/5 終了時) **-5,818**

NY市場 216,929 枚(11/29 終了時) ⇒215,748 枚 (12/5 終了時) **-1,181**

【12月2日(月)】両市場とも上昇=供給不足拡大の見通し

ニューヨーク市場は続伸。国際ココア機関(ICO)による2012~13年の需給見通し発表を前に、3月きりは一時2844ドルと2年超ぶりの高値まで上昇した。終値は25ドル(0.9%)高の**2813ドル**。

ICOは世界的なココアの供給不足量について、前回見通しの5万2000トンから16万トンに大きく引き上げた。ロンドン市場も上昇し、3月きりは14ポンド(0.8%)高の1759ポンドと、先月付けた2年ぶりの高値の1788ポンドに近い水準で引けた。

【12月3日(火)】両市場とも小反落

ニューヨーク市場は小反落。需給逼迫(ひっばく)見通しにもかかわらず、前日に2844ドルと、2011年9月以来の高値を付けた後で、値固めした。3月きりは5ドル(0.2%)安の2808ドルで引けた。

市場関係者は「順調に入荷してきているにもかかわらず、最終的にはかなりの供給不足に陥るとの観測も根強く、皮肉な状況に陥っている」と語った。

ロンドン市場の3月きりは7ポンド(0.4%)安の1752ポンドで終了した。マレックス・スペクトロンのエリック・シヴリー氏は「大きく上げ始めた途端に産地筋のヘッジ売りが出て市場を圧迫することが、ロンドンの問題だ」と指摘した。

【12月4日（水）】急落＝利益確定売り

ココア先物は、ニューヨーク、ロンドン市場とも、利益確定売りに急落。ニューヨーク市場の3月きりは一時、2.8%安まで急落した後、39ドル（1.4%）安の2769ドルで終了。

RJOフューチャーズ（シカゴ）のブローカー、ヘクター・ガルバン氏は「利益確定売りの動きが活発となった。2800ドルを割り込んだことで、動きが加速した」と話した。

ロンドン市場の3月きりは、16ポンド（0.9%）安の1736ポンドで引けた。

【12月5日（木）】両市場とも続落

ニューヨーク、ロンドン市場ともに投資家の売りが出て続落した。実需筋の買いに支えられ、下げ幅は抑制された。

ニューヨーク市場の3月きりは15ドル（0.5%）安の**2754ドル**。ロンドン市場の3月きりは3ポンド（0.2%）安の**1733ポンド**で終了した。

【12月6日（金）】両市場とも反発

ニューヨーク市場のココア先物は、供給不足の見方や米雇用統計など強い内容の経済指標を受け、約3週間ぶりの高値に上昇した。

ニューヨーク市場の3月きりは反発。49ドル（1.8%）高の2803ドルと、2日に付けた2年超ぶりの高値の2844ドルに近い水準。

ロンドン市場の3月きりも反発した。29ポンド（1.7%）高の**1762ポンド**と、先月付けた2年超ぶりの高値1788ポンドに近づいている

2、ICCO は 2012/2013 シーズンのカカオ不足数量を上方修正(12/2)

世界国際カカオ機関（ICCO）は月曜日 2012/2013 シーズンの世界的なカカオ豆の需給バランスは低い生産数量と当初の予測よりも需要が堅調であったことを受けて、160,000 トンの供給不足となったことを発表した。前回の予測数値の発表は8月でその際は、52,000 トンの供給不足であった。

今回の数値修正により ICCO の予測も、業界の主要なカカオトレーダーである OLAM 社が 10 月に発表していた年間 150,000 トンの不足予測と同じ範囲になった。

世界全体の 2012/2013 シーズンのカカオ磨砕数量は前回の予測 400 万トンから今回 405 万トンに上方修正され、その前のシーズンよりも 2.4%上昇している。

また ICCO は世界全体のカカオ豆生産数量を前回予測の 399 万トンから今回 393 万トンに下方修正した。前シーズンの生産数量は 408 万トンであった。

ICCO としてはまだ正式に 2013/2014 シーズンの需給予測については発表していないものの、カカオ業界としては 2013/2014 シーズンも引き続き 100,000 トンを超える供給不足になると考察しており、ICCO のエグゼクティブディレクターの Jean-Marc Anga 氏は 10 月にも今後 4 シーズンは世界のカカオの需給バランスは不足が続くだろうと予測していると発表した。

3、インドネシア・スラウェシ島カカオ豆 11 月輸出は、前年対比 36%の減少 (12/4)

インドネシアの主要なカカオの生産地であるスラウェシ島からの 11 月度のカカオ豆輸出は前年の 9417.71 トンと比較し、36%減少の 6038.32 トンであったことが判明した。

11 月度のカカオ豆輸出数量は前月 10 月との比較では 14%の増加だった。

コートジ、ガーナに次ぐ世界第 3 位のカカオ豆生産国は収穫数量を減じる降雨の多い天候が原因で、昨年の 456,000 トンから今年は 430,000 トンに 6%減少する見込みであると the Indonesian Cocoa Association (ASKINDO) は述べている。

カカオ豆輸出は、今年は 140,000 トンに達すると見込まれており、前回の予測時と比較し 40%も上昇しているものの、昨年の 163,501 トンよりは低い数字となっている。

下記は、2012/2013 シーズンのスラウェシ島からのカカオ豆の輸出数量の統計である。

月	輸出 (トン)	前年同月比(%)
2013 年		
November	6,038.32	-36
October	5,274.95	-8
September	10,408.69	-40
August	9,063.55	+109
July	8,671.88	+2
June	7,773.00	+57
May	5,654.00	-21
April	5,781.25	-27
March	8,662.08	+147
February	7,790.50	-2
January	8,349.38	-6

2012 年		
December	7,508.11	-38
November	9,417.71	-20
October	5,734.81	-17
September	17,240.14	+133
August	4,340.00	-48
July	8,464.34	-37
June	4,935.48	-68
May	7,114.46	-53
April	7,912.02	+404
March	3,505.66	-69
February	7,917.7	-20
January	8,904.25	-23

4、フェレロ社アジア市場で事業拡大を計画(12/5)

ヘーゼルナッツを包んだチョコレートで有名なチョコレートブランド“フェレロ・ロシェ”は同社のシンガポール本社を拠点としてアジア市場で一気に事業拡大を目指している最中だ。

しかし、同社の戦略は、いくつかの限定した戦略商品に焦点を絞ることである。

欧州市場では、沢山の商品を展開するイタリアのお菓子会社であるフェレロだが、東南アジアでは僅か5つの商品のみ購入できる。

これは同社の基本戦略“各地域においていくつかのことにのみ集中し、成功を収める”を採用しているのものであると、東南アジア市場の部長の Rudolph Sequeira は言う。

フェレロ・ロシェで有名な同社は、東南アジア市場においては、ヘーゼルナッツの Spreddo で有名な Nutella、チョコレートブランドの Kinder Joy と、Kinder Bueno、そして Tic Tac Sweets を販売している。

Mr Sequeira がフェレロ社の最新のCSRレポートの発表に際してシンガポールの新聞に話した内容によると、同社のCSRに対する取り組みは、社会的な企業組織を作ることから、持続可能な原材料を調達すること等を定義している。

シンガポールは同社のアジア地域の本社があり、同国では80人の従業員が活動している。

同社は現在、世界で4番目に大きい製菓会社であり、3代目のフェレロファミリーに率いられている。

これまで過去には、マレーシアに関連会社を、インドネシアとフィリピンには事務所を設立してきた。

フェレロはまた、ベトナム、カンボジア、ミャンマーでの市場機会を調査している最中だという。

同社の売上の80%は現在のところ、まだ欧州市場からのものだが、『アジア市場はより占拠が進んできており、より重要になってきている。我々は今、欧州以外の市場により多く投資を行っている』と、Sequeira氏は言う。

『今後10年で、欧州市場とそれ以外の市場の比率は極端に大きく変わっていくだろう、我々は欧州市場と新興市場の良い比率を保ちながら確実に成長していきたいと思っている』

5、インドネシア政府、来年度カカオ生産を100万トンまで増産を計画(12/5)

インドネシア政府は、来年度同国のカカオ生産を今年度の93万6266トンから100万トンまで増産する計画をしている。

政府の発表によると、同国のカカオ生産面積の合計は現在170万ヘクタールあり、生産効率は1ヘクタール当たり820kgのカカオの生産が期待できるとしている。

6、アジア市場) 第1四半期のバターは下落、パウダーは価格上昇傾向(12/6)

- ・即積みのバターレシオは2.60で変化せず。
- ・第1四半期積み出しのバターは先週2.50-2.60から今週は2.45-2.50に下落。
- ・磨砕業者はココアバターのレシオ下落に伴い、パウダーの価格を上げ始めた。

今週アジア市場のカカオ磨砕業者は顧客であるチョコレートメーカーのココアバターの在庫が十分な状況もしくは、安値を待つ状況により需要が停滞し、来年度の取引は僅かしかなかったとディーラー筋が報告した。

12月積み出しのココアバターのレシオは先週と変わらずロンドンの先物市場価格に対して2.60倍であったが、10月中旬に付けた過去7年での最高値である2.80倍と比較すると下落した。

また今週、来年の第1四半期のココアバターは先週の2.50~2.60倍から下がり2.45~2.50倍となった。

『第1四半期の積み出し分のバターの取引の数量は小さく、多くの顧客がココアバターレシオが下がるのを待っている状態だ』シンガポールのディーラーは言う。『磨砕業者は落ちた分のレシオを補填しなければならないので、ココアパウダーの価格が上昇してきている』

"

今週のココアパウダーの価格は上昇し、先週の\$1,400~\$1600/トンから\$1800/トンに上昇したが、取引がどの程度成立したかの情報はない。

『パウダーに関してはいくつかの需要があるが、現在バターレシオが下がったことで、パウダーの価格が上昇している』シンガポールのディーラーは、いくつかの磨砕業者はココアパウダーを\$1,900まで高値で案内していると付け加えて説明した。

関連ニュース (1) ユニリーバが製品数30%削減へ、従業員も2000人減らす(12/5)

英蘭系日用品大手ユニリーバのポール・ポルマン最高経営責任者(CEO)は5日、ロンドンでのプレゼンテーションで、同社の販売製品数を2014年末までに30%減らすことを明らかにした。世界景気の減速に対応し、営業の効率化を図る。

同社はまた、約2000人の従業員削減も発表した。サプライチェーンの改善や一段の業務効率化と合わせ、14年に5億ユーロ(6億8300万ドル)のコストを浮かすという。

ポルマンCEOは「世界経済の伸びは1-1.5%程度下振れしており、私たちは恐らくもっとやりようがあったはずだ」と述べた。

ユニリーバは10月、新興国通貨の下落のためや、ライバルの米プロクター・アンド・ギャンブル(P&G) PG.Nが米国で強力な売り込みを図ったことから、7-9月期の売上高の伸びが鈍化したと発表している。「わが社は競争力を失った」とポルマンCEOは語った。

ユニリーバは主力ブランドに集中し、「非中核事業や売上高の劣るブランドの売却を続けるとともに、可能なら魅力的なブランドを買収する」(ポルマンCEO)という。

売却対象となるブランドはおおむね食品事業になるとされた。同社は「クノール・スープ」などのブランドを保有している。

*特徴的なチョコレートを毎週ひとつ取り上げて紹介する『今週のチョコレート』を別添にて毎週配信しております!!こちらは何卒、ご愛読頂きますようお願い申し上げます。

*特別の注釈がない記事は全て、基本的にロイター通信社のニュースソースを基に作成したものです。

《お問い合わせ先、配信希望または、停止のご連絡先》

株式会社 立花商店 東京支店 生田

TEL03-5785-3545 w-ikuta@tachibana-grp.co.jp